

2 社会・地歴・公民科

(1) 社会・地歴・公民科における思考力・判断力・表現力の育成と評価の実態

ア 言語活動の充実の考え方

社会・地歴・公民科における言語活動の充実とは、「地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することを一層重視すること」である。これを表4のように4視点で整理した。

表4 4視点で捉えた言語活動

読み取り	社会的事象に関する事実を調査・見学や地図、統計など各種の資料等を基に読み取る活動
解釈	社会的事象のもつ特色や意味、意義について各種の資料等を基に考察する活動
説明	社会的事象の特色や事象間の関連を各種の資料等を基に考察し、表現する活動
論述	社会的事象について、各種の資料等を根拠に自分なりの考えを表現する活動

これらの言語活動を指導計画に位置付け、意図的・計画的に指導を行うとともに、児童生徒の「思考・判断・表現」を的確に評価し、それを指導に生かすことが重要である。

イ 実態調査の結果と考察

平成23年度に実施した実態調査から、社会・地歴・公民科における言語活動と評価の状況について、以下のことが明らかになった。

まず、「社会的な思考・判断・表現」の評価に用いる資料については、全校種において「記述式のテスト」や「授業中のノートやワークシート」など、記述されたものを思考・判断・表現の結果と捉え、評価していることが多いことが分かる(図17)。

次に、「社会的な思考・判断・表現」において、「評価を行う際にどのようにして行っているか。」という問いに対して、「評価規準により判断」して

いるという回答が全校種の半数を超えている。一方、「十分満足できる」、「おおむね満足できる」状況について「判断するための基準を定め判断」しているという回答は少ない(図18)。自由記述においても、「評価する基準の設定が難しい」や「基準が妥当かどうか判断しにくい」などの意見が多いことから、客観的な評価が難しいという現状があると考えられる。

これらの状況を踏まえて、児童生徒の思考や判断が最終的に表現される「説明」、「論述」の言語活動において、目標の達成状況を判断する基準(「判断基準」)を定めておくことができれば、「思考・判断・表現」の評価を的確に行うことができるのではないかと考え、「判断基準」の適切な設定、「判断基準」を踏まえた指導と評価について研究してきた。

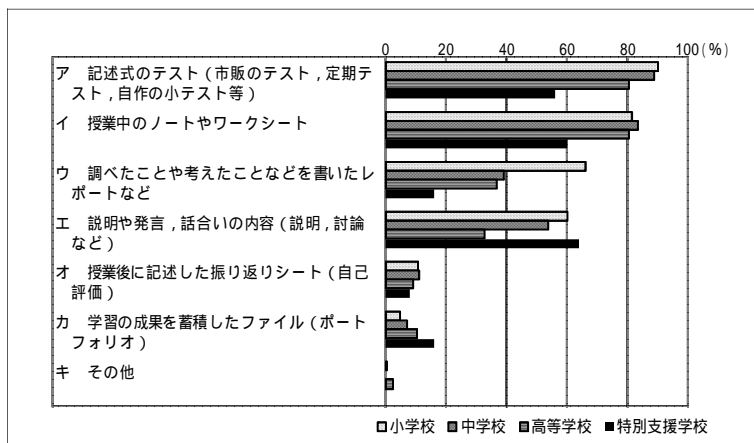


図17 社会・地歴・公民科における評価の資料

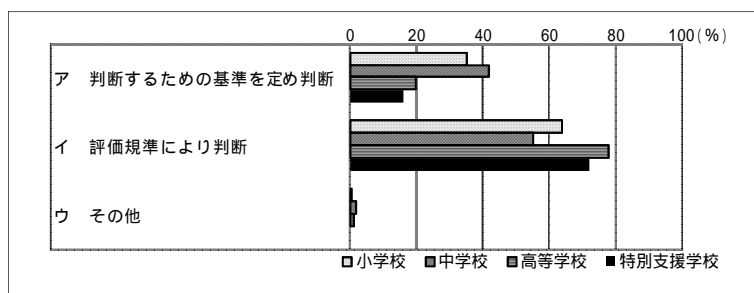


図18 社会・地歴・公民科における評価の判断

(2) 社会・地歴・公民科における「思考・判断・表現」の評価

ア 「思考・判断・表現」の観点

「判断基準」を設定する際は、「思考・判断・表現」の観点の趣旨を踏まえなければならない。社会・地歴・公民科における「思考・判断・表現」の観点の趣旨は次のとおりである。

観点	社会的な思考・判断・表現		思考・判断・表現	
校種	小学校[社会科]	中学校[社会科]	高等学校[地歴科]	高等学校[公民科]
趣旨	社会的な事象から学習問題を見いだして追究し、社会的な事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。	社会的な事象から課題を見いだし、社会的な事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断を適切に表現している。	歴史的・地理的な事象から課題を見いだし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見いだし、社会的な事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

これによれば、どの校種においても、社会的な事象から課題を見いだす過程、考察する過程、社会的な事象のもつ意味や意義を判断する過程があり、その過程や結果を適切に表現するとされている。つまり、社会・地歴・公民科における「思考力・判断力・表現力」は、問題解決の過程で思考・判断する力、そして、それを表現する力のことを指していると考えることができる。したがって、「思考力・判断力・表現力」を育成するためには、全校種において、問題解決的な学習（課題解決的な学習）を展開することが重要である。

イ 「判断基準」の設定の在り方

「思考・判断・表現」の観点の趣旨を踏まえて、その的確な評価を行うための「判断基準」による評価の流れについて述べる。

まず、単元の目標を踏まえて、評価規準を作成する。次に、評価規準を分析的に表した「判断の要素」を明確にする。そして、「判断の要素」からどのような内容を、どのような目安で評価するかを具体化した「判断基準」を設定する。

また、あらかじめ児童生徒の表現例を想定しておくことで、実態に応じた評価が可能になる。このようにして設定した「判断基準」を指導と

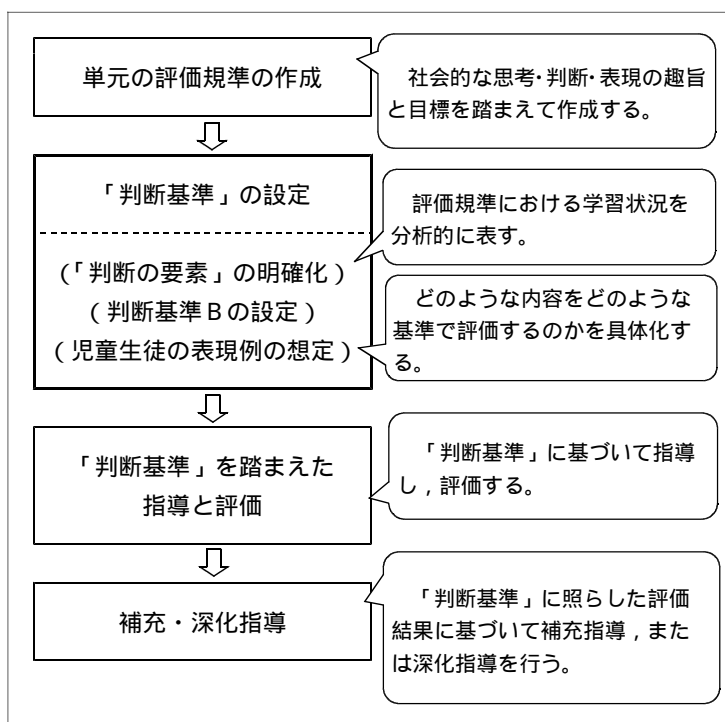


図19 「判断基準」による評価の流れ

評価の計画に位置付け、指導と評価を行う（図19）。

なお、社会・地歴・公民科においては、習得した「基礎的・基本的な知識、概念」を踏まえて、社会的な事象の意義や特色、事象相互の関連等を多面的・多角的に考察することが重要である。その際、各種の資料等を基にして読み取り、解釈、説明、論述等の言語活動を行う

ことが求められる。そこで「判断の要素」を明確にするには、右に示すように「基礎的・基本的な知識、概念を基にした思考・判断」と「4視点で捉えた言語活動の結果」から設定する。

このように「判断の要素」を分析しておくことで、児童生徒の社会的な思考・判断・表現をよりの確に評価することができると思う。

次に「判断基準」の設定例を示す。

【「判断基準」の設定例（小学校 第6学年「新しい時代の幕開け」）】

判断の要素	「基礎的・基本的な知識、概念を基にした思考・判断」
	「4視点で捉えた言語活動」の結果（読み取り、解釈、説明、論述）

評価規準【思考・判断・表現】	
我が国が西洋に追いつくために、政治制度の整備や社会制度の改革を実施するなどの近代化を進めたことや、それによって人々の暮らしが大きく変化したことを適切に表現している。	
評価時期及び評価の対象	
9時間構成の第9時 学習問題に対して児童がまとめた内容（ワークシート）	
判断の要素	
ア 基礎的・基本的な知識、概念を基にした思考・判断 近代化の推進の理由 人々の暮らしの変化 イ 4視点で捉えた言語活動の結果 説明（日本の近代化について各種の資料を基に表現）	
尺度	判断基準
B	ア 基礎的・基本的な知識、概念を基にした思考・判断 西洋に追いつくため 西洋風になったこと イ 4視点で捉えた言語活動の結果 近代化の推進と、人々の暮らしの変化に関する資料から読み取ったり解釈したりしたことを基に表現している。 （予想される児童の表現例） 明治政府が廃藩置県や四民平等などの改革を行い、近代化を進めたのは、西洋に追いつくためです。また、人々の暮らしは、近代化によって、西洋風に大きく変わりました。 （岩倉使節団、教育の普及などに関する資料を基に考察）
C 状況の生徒への指導	判断基準 B を基に補充指導を行う。 ・ ノートやワークシートで社会的事象の意味を再度振り返らせる。 ・ 岩倉使節団の写真などを具体的に提示し、学習を振り返らせる。
A	（判断基準 B に加えて） 江戸時代との比較を通して解釈・説明している。 外国との関係から解釈・説明している。 など
B 状況の生徒への指導	判断基準 A を基に深化指導を行う。 ・ 江戸時代の江戸の様子、明治時代の東京の様子を示す資料を比較させて、どのような点が変化したのかを考えさせる。 ・ 外国との関係はどうであったのかを考えさせる。 など

本時の目標をおおむね達成できた状況を、習得させるべき基礎的・基本的な知識、概念を踏まえて、具体化する。

単元のどの時期に、何をを用いて評価するのかを明確にする。

評価規準を満たしているかを判断する際のポイントを箇条書きする。

判断の要素の各項目について「おおむね満足できる」状況として、言語活動の状況を具体化する。

判断基準 B を満たしていると客観的に判断される具体的内容を児童の言葉で想定する。
目標達成の具体的なイメージをもって評価し、指導に生かす。

判断基準 B を満たしていない児童に対して、基礎的・基本的な知識、概念を基にした思考・判断について、補充指導を行う内容を明確にする。

判断基準 B を基に、より質の高い思考・判断・表現であると判断できる（「十分達成された」と評価できる）状況を示す。

(3) 「判断基準」に基づく指導と評価

ア 「判断基準」に基づく指導の考え方

社会・地歴・公民科においては、問題解決的な学習の中で、児童生徒の思考力・判断力・表現力を育成する必要がある。単元あるいは一単位時間の最初に設定した問題に対する結論を導く過程において、読み取り、解釈、説明、論述等の言語活動を充実させることが重要である。前頁で示した小学校の事例では「判断基準」を基に指導計画を次のように作成した。

過程	時	主な学習活動	言語活動
つかむ	1	本単元における学習問題を設定する。 明治政府は、なぜ近代化を進め、それによって人々の暮らしはどのように変化したのだろうか。	読み取り 解釈
たてる	2	学習問題に対する予想を立て、調べたいことを出し合い、追究の柱を立てる。 明治政府はどのような国づくりを目指し、どのような改革を行ったか。 明治時代になって、町の様子や人々の暮らしは、どう変わったか。	解釈 説明
調べる ・ 考える	3 ・ 7	追究の柱について、資料を基に調べ、自分なりに考えを深める。 (1) 黒船がきた (2) 新しい政府をつくる (3) 西洋に追いつけ (4) 人々の暮らしが変わった (5) 自由民権運動が広がる (6) 国会が開かれる	読み取り 解釈 説明
まとめる	8	調べたことを自分なりに解釈してまとめ、グループ内で説明する。	解釈 説明
広げる	9	グループ内で説明し合ったことを基に、再度、学習問題に対する自分の考えを記述し、全体で発表する。	説明 論述

問題解決的な学習の流れ

イ 「思考・判断・表現」の見取りと補充・深化指導

この事例では、第1時に設定した学習問題に対し、「調べる・考える」過程の各時間において、明治政府の政策や社会の変化について解釈させている。第9時では、それらを総合して表現したものを評価することになる。

また、その評価を基に児童の学習の達成状況に応じて、補充指導あるいは深化指導を行う。

	児童の表現例	評価と補充・深化指導
C状況の児童への指導	<p>【判断基準Bを基にした見取り】</p> <p>明治政府は <u>廃藩置県</u>、<u>四民平等</u>、<u>富国強兵</u>などの政策を行いました。<u>大日本帝国憲法</u>がつくられたり、<u>国会</u>が<u>できたり</u>しました。 また、<u>文明開化</u>によって、<u>人々の暮らしは西洋風</u>に大きく変わりました。</p>	<p>〔評価〕 判断基準BのAの「人々の暮らしの変化」については述べているが、「近代化を推進したのはなぜか」という考察がなされていないため、C状況と判断した。 〔補充指導〕 それぞれの理由や根拠を資料から読み取って考察するよう指導した結果、B状況となった。</p>
B状況の児童への指導	<p>【判断基準Bを基にした見取り】</p> <p>明治政府が<u>地租改正</u>、<u>殖産興業</u>などの様々な政策を進めたのは、<u>欧米に負けない強くて豊かな国</u>をつくるためです。 また、<u>文明開化</u>によって<u>人々の暮らしは西洋風</u>に変わりました。</p>	<p>〔評価〕 判断基準BのAの の内容を資料を基に述べており、B状況と判断した。 〔深化指導〕 江戸時代との比較や外国との関係の視点を与え、明治維新の意義について更に深く考察させる深化指導を行った結果、A状況となった。</p>

(4) 各学校の実践例

ア 小学校第5学年 単元名「これからの食料生産」

(ア) 単元及び本時の概要

我が国の農業や水産業について、食料生産や、外国からの輸入の状況などを調査したり、地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深い関わりをもって営まれていることを考えるようにさせる単元である。本時は、食料の安定的な確保や自然環境について、どのような工夫が必要か、資料やこれまでの学習を基に自分の考えを整理・統合しながら論述する、まとめの段階である。

(イ) 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
日本の食料生産が抱えている問題に関心を持ち、意欲的に問題を追究し、自分の行動を改めていこうとする。	調べたことと、食料自給率の問題等を相互に関連付け、日本のこれからの食料生産の在り方について考え、適切に表現している。	日本の食料生産の現状を、グラフや写真を通して読み取っている。	日本の食料生産の現状や課題を捉え、食料を確保していくことの大切さを理解している。

(ウ) 「判断基準」

評価時期及び評価の対象（思考・判断に基づく表現内容）	
5時間構成の第5時 学習問題に対するの論述文の内容	
尺度	判断基準
B	<p>ア 基礎的・基本的な知識、概念を基にした思考・判断 食料自給率低下への対応 食料の安全性や健康への配慮 自然環境への配慮</p> <p>イ 4視点で捉えた言語活動の結果 アの～を踏まえて、資料から読み取ったことを基に「食料生産」について考察したことを表現している。</p> <p>（予想される児童の表現例） 食料自給率が低下しているため、国内での農産物生産を高める工夫と努力が必要です。安心・安全な食料を確保するには、生産地がはっきりしている国産や地元産の食料を買うことが大切です。それは、地元産の食料は輸送にかかる燃料が少なく済み、二酸化炭素もあまり出さないから自然環境にも優しいからです。</p>
A	<p>（判断基準Bに加えて） 地域の現状を関連付けて考えたり、消費者として今後の自分の食生活の在り方について触れたりしている。</p>

(エ) 本時の実際（一部掲載）

過程	学習活動	教師の働き掛け	「思考・判断・表現」の評価
導入	<p>1 前時までの学習を振り返り、本時の学習問題を設定する。 日本の食料生産を高め、安心・安全な食料を確保するにはどうしたらよいのだろう。</p> <p>2 学習の進め方を確認する。 追究の柱を立てる。</p>	<p>これまでの学習資料を提示し、学習内容を想起させる。</p> <p>学習計画表を基に、本時の学習の進め方を確認させる。</p>	<p>日本の食料生産が抱えている問題について、相互交流を通して今後の改善すべき点をワークシートに表現している。</p> <p>日本の食料生産の現状を、グラフや写真を通して適切に読み取っている。</p> <p>資料を根拠に解釈した追究の結果を説明しながらまとめている。</p>
展開	<p>3 これまで学んできたことを基に、学習問題に対する自分の考えを発表し、互いに意見を交換する。</p> <p>4 グループ内で交流したことを基に、再度自分の考えをまとめる。</p>	<p>考えたことを互いに意見交換し合うことで、～の「判断基準」を確認し、情報を共有化するとともに、関連性をもたせる。</p> <p>～の「判断基準」を踏まえて、関連付けながら学習課題に対する自分の考えをまとめさせる。</p>	<p>判断基準Bを基にした評価</p>
終末	<p>5 学習問題に対する自分の考えを発表する。</p> <p>6 本時の学習を振り返り、次時の学習への意欲をもつ。</p>	<p>机間指導の結果を基に、数人の児童に発表させる。</p> <p>人間は自然を利用しながら食料を確保したり、食料生産を行ったりしていることを確認させる。</p>	<p>補充指導</p> <p>深化指導</p>

(オ) 考察

「判断基準」による指導

本時における言語活動は、習得した 食料自給率の低下についての知識、食料の安全性や健康への配慮についての知識、自然環境への配慮の必要性についての知識を関連付けて考察し、食料生産について論述させたものである。～ の「判断基準」を設定したことで、具体的な視点をもって適切に授業が計画された。また、授業中の資料の読み取り、解釈などの指導や授業後の補充・深化指導にも生かすことができた。

「判断基準」による見取りと補充・深化指導

本時の学習の評価は、児童に「日本の食料生産を高め、安心・安全な食料を確保するには、どうしたらよいのだろう」という学習問題に対する考えを、ワークシートに論述させ、事前に設定した「判断基準」に照らして行った。

児童の論述の例	論述の見取りと評価に基づく指導
<p>「おおむね満足できる」状況</p> <p><u>食料自給率が低いことから、国内での生産を高める努力が必要です。また、安全な食料を食べることができるよう、生産者ができるだけ農薬を使わずに低農薬や無農薬での作物を生産することも大切です。そして、自然環境を守るために大量の石油を使わないことが大切なので、輸送距離が短い、地元産の作物を地元で消費する地産地消の考え方も重要です。</u></p>	<p>〔評価〕 判断基準BのAの～について、関連付けながら述べているためB状況であると判断した。</p> <p>〔深化指導〕 消費者として食料問題をどう考え、どう行動するかといった視点からの論述ができるよう深化指導を行うことで、A状況になると考える。</p>
<p>「努力を要する」状況</p> <p><u>食料生産を高めるには耕地の面積を広くすることが大切です。その理由は、そうすることで地元や国産の食べ物が増えるからです。また、安心・安全な食料を確保するために輸入品や国産のものを検査することが必要です。その理由は、消費者がラベルを見てどこのものかが分かり、食べたいものを選べるからです。</u></p>	<p>〔評価〕 判断基準BのAの～については述べているが、～については正しく述べられていないため、C状況と判断した。</p> <p>〔補充指導〕 自然環境への配慮について論述できるよう補充指導を行うことで、B状況になると考える。</p>
<p>「十分満足できる」状況</p> <p><u>日本では、食料自給率が低下してきている状況があるため、農家を保護したり、農業生産を高め、国内での生産を増やす努力をしたりすることが重要です。消費者が安全な食料を安心して食べることができるよう、生産者は「あいがも農法」を行うなど、無農薬・低農薬の作物を生産する努力をすることも必要です。自然環境保護のためには、化石燃料を多く用いないことが重要なので、輸送にかかる燃料を抑えるために地産地消の考え方もあります。</u></p> <p><u>これから自分にできることは、なるべく国産・地元産の物や、生産地・生産者などが分かっている物を買うようにしていくことです。</u></p>	<p>〔評価〕 この児童の論述は、判断基準BのAの～を全て満たし、それらを関連付けて述べているとともに、判断基準Aの消費者として食料生産について、どう考え、どう行動すべきかという視点をもって論述しているため、A状況にあたりと判断した。</p> <p>さらに、食料自給率が低下している現状について、具体的な数値などの根拠を示すよう指導することが考えられる。</p>

(カ) 成果と課題

児童の論述を見取るために、「判断基準」を活用することで、教師にとって「どのような指導や助言が必要か」が具体的に分かり、評価を指導に生かすことができた。

単元全体を通じた評価や、評価を基にした補充・深化指導がしやすくなった。

全ての児童が確実にB状況に到達できるようにするために、判断基準Bから考えられる補充指導の在り方について更に工夫する必要がある。

イ 中学校第3学年 公民的分野 単元名「暮らしとつながる政治」

(ア) 単元及び本時の概要

政治の仕組みについて理解させ、地方公共団体の発展に寄与しようとする自治意識の基礎を育て、国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解させ、議会制民主主義の意義について考えさせる単元である。本時においては、「選挙の意義」について自分の考えをまとめ、意見交換を行わせた。

(イ) 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
<p>国や地方公共団体の政治に対する関心が高まっている。</p> <p>民主政治の基本的な考え方と、国や地方公共団体の政治の仕組みについて意欲的に追究している。</p>	<p>選挙をはじめとする国民の政治参加が民主政治を支えていることに気付き、望ましい政治参加の在り方について、資料や話し合いなどを通じて多面的・多角的に考え、それを分かりやすく表現している。</p>	<p>国や政党、地方公共団体の政治の仕組みに関する資料を収集している。</p>	<p>多数決が民主的な方法として用いられるには説得と討論が必要で、多数決が公正に運用されるために、反対意見や少数意見が尊重されることを理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>日本の選挙の特色や課題を理解し、まとめている。</p>

(ウ) 「判断基準」

評価時期及び評価の対象(思考・判断に基づく表現内容)	
3時間構成の第3時 学習課題に対するの論述文の内容	
尺度	判断基準
B	<p>ア 基礎的・基本的な知識，概念を基にした思考・判断 選挙は、国民の意思を政治に反映させるという意義があること。 選挙は、議会制民主主義を支える手段であること。 選挙は、国民が主体的に政治に参加できる権利であること。</p> <p>イ 4視点による言語活動の結果 アの～を踏まえて、資料から読み取ったことに基づいて「選挙の意義」について考察したことを表現している。 (予想される生徒の表現例) 選挙は国民が自らの意思を投票という形で政治に反映させるという重要な意義がある。したがって、選挙は議会制民主主義を支える手段であるとも言える。また、選挙権は国民が政治に参加する権利でもあり、先人の努力によって獲得してきたものである。</p>
A	<p>(判断基準Bに加えて) 選挙の意義と現在の状況との比較を行い説明がなされている。 今後の選挙の在り方や、将来自分たちが選挙をどう捉えていくかが説明されている。</p>

(エ) 本時の実際(一部掲載)

過程	学習活動	教師の働き掛け	「思考・判断・表現」の評価
導入	<p>1 写真を見て、撮影場所と何をしているところかを考える。</p> <p>2 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を設定する。 選挙にはどんな意義があるのだろうか。</p>	<p>知事選挙に関連する写真を基に、多くの予算をかけて選挙権の保障がされていることを確認させ、学習意欲を高める。</p> <p>前時に各班が選挙に関して調べた資料を確認しながら、学習課題を設定させる。</p>	<p>選挙権を18歳からにするべきであるか否かについて、賛成・反対の立場から意見交換(表現)している。</p> <p>投票率向上を呼びかけるPR文を作成するという形式で、選挙の意義について、ワークシートに論述している。</p> <p>他の生徒のPR文と、自分の文との比較を行うことができる。</p> <p>判断基準Bを基にした評価</p> <p>補充指導 深化指導</p>
展開	<p>3 論題について賛成か反対か意見を述べる。</p> <p>4 意見が変化した生徒の根拠を確認する。</p> <p>5 授業を振り返り、選挙の意義を考え、投票率向上のPR文を作成する。</p>	<p>生徒に「判断基準」を根拠に論題について考えさせる。</p> <p>意見の変容が「判断基準」を根拠にしているかを確認させながら発表させる。</p> <p>鹿児島知事選挙の投票率の現状を伝え、選挙の意義を考え、PR文を作成させる。</p>	
終末	<p>6 以前、選挙の意義を書いた用紙と、現在の状況との比較を行う。</p> <p>7 本時のまとめを行う。</p>	<p>単元が始まる前に書かせた記述との変容を確認させる。</p> <p>PR文で不足している部分を「判断基準」を基に補足する。</p>	

(オ) 考察

「判断基準」による指導

本時における言語活動は、習得した 選挙が国民の意思を政治に反映させる手段であるという知識、 選挙が、議会制民主主義を支える手段であるという知識、 選挙が、国民が主体的に政治参加できる権利であるという知識を関連付けて考察し、選挙の意義について論述させたものである。～ の「判断基準」を設定したことで、具体的な視点をもって授業が適切に計画された。また、授業中の資料の読み取り、解釈などの指導や授業後の補充・深化指導にも生かすことができた。

「判断基準」による見取りと補充・深化指導

本時の学習の評価は、生徒に選挙の意義について「選挙にはどんな意義があるのだろうか。」という学習問題に対する考えをワークシートに論述させ、「判断基準」に照らして評価を行い、それを基に補充・深化指導を行った。

生徒の論述の例	論述の見取りと評価に基づく指導
<p>「おおむね満足できる」状況</p> <p>選挙は、<u>国民の意思を政治に反映させるために実施するものです。</u> <u>国民の意思により 法律を定める権限を選挙で選ばれた人々に委ねるという方法を議会制民主主義といいます。</u> <u>選挙によって国民は間接的に政治に参加することになります。だから、選挙は国民にとって大切な権利であり、主体的に参加していかなければなりません。</u></p>	<p>〔評価〕 判断基準BのAの～について述べられており、全てを関連付けて論述しているので、B状況と判断した。 〔深化指導〕 選挙の意義と現在の状況との関連について述べるなどの深化指導を行うことで、A状況となると考える。</p>
<p>「努力を要する」状況</p> <p>選挙の意義は、<u>現在日本では、高齢者が多くなり、若者が主体的に政治に参加し、議会制民主主義を支え、日本を支えなければいけない。だから、選挙向上のために、国民の意思を反映して、若者が主体的に参加できる手段を考えてあげれば良いと思います。例えば、若者の意見をまとめる場を設定したり、若者に政治家との交流の場を設定すればよいと思います。</u></p>	<p>〔評価〕 判断基準BのAの～については述べられているが、～については正しく述べられていないため、C状況と判断した。 〔補充指導〕 調べ学習の資料から、戦前の日本の選挙制度について再確認させるなどの補充指導を行うことで、B状況となると考える。</p>
<p>「十分満足できる」状況</p> <p><u>選挙は国民の意思を政治に反映させる手段の一つです。また、選挙は議会制民主主義を実現するための重要な制度です。だから国民は選挙権を行使して、主体的に政治に参加する必要があります。</u> <u>近年、投票率の低下、特に若者の投票率低下が問題になっています。理由は、政治に関心がない人がほとんどだからです。</u> <u>将来は今の若者が社会を支えていかないといけないので、若者の意見を反映させるためにも、もっと主体的に選挙に参加することが大切です。</u></p>	<p>〔評価〕 判断基準BのAの～について述べられているとともに、投票率低下の問題や若者の政治に対する無関心という現状について触れ、自らの意見を述べているためA状況であると判断した。 さらに、若者の投票率低下について、なぜ「政治に関心がない人がほとんど」なのかということの根拠を示すよう指導することで、より客観的な論述になると考えられる。</p>

(カ) 成果と課題

「判断基準」を設定して、これを活用して授業設計を行ったことで、授業のポイントを明確化することができ、生徒の思考・判断・表現の評価を的確に行うことができた。

C状況の生徒への補充指導を、判断基準Bに基づいて適切に行うことができた。

全ての生徒を判断基準Bに到達させることができるようにするために、使用する資料の適切な選択や学習の展開の在り方について教材研究を更に深める必要がある。

ウ 高等学校第3学年 現代社会 単元名「よりよく生きることを求めて」

(ア) 単元及び本時の概要

現代社会における愛，自由，幸福，正義といった倫理的な価値について，先哲の思想の学習を通じて理解を深めさせ，現代社会についての特色や，現代社会における自らの在り方・生き方を多面的・多角的に考察させ，そのことで得た結論と過程について根拠を示しながら表現させる単元である。本時においては，カントやサルトルの思想や，日本国憲法の内容を踏まえて，「自由」の概念についての理解を深め，根拠などを示しながら表現させた。

(イ) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代社会について関心を高め，その本質や特質，自らの存在について意欲的に追究しようとしている。	現代社会についての特色や，現代社会における自らの在り方・生き方を多面的・多角的に考察し，考察して得た結論とその過程を，根拠を示しながら表現している。	資料から，現代社会の本質や特質，自らの在り方・生き方についての的確に読み取っている。	愛，自由，幸福，正義といった論理的な価値について，先哲の思想の学習を通して理解を深めている。

(ウ) 「判断基準」

評価時期及び評価の対象（思考・判断に基づく表現内容）	
4時間構成の第4時 学習課題に対するの論述文の内容	
尺度	判断基準
ア	基礎的・基本的な知識，概念を基にした思考・判断 カントの言う「自由は」は理性の命令に従うこと，サルトルの言う「自由」は積極的な社会参加のための決断であるということ。 日本国憲法においては，自由に「公共の福祉に反しない限り」という制限があること。
イ	4視点による言語活動の結果 アの～を踏まえて，資料から読み取ったこと基に「自由」について考察したことを表現している。
B	（予想される生徒の表現例） カントはいかなる場合でも欲望に負けず理性の出す命令に従うことが「自由」として定義付け，サルトルは「自由」とは自分自身で全てのことを決定し決断することであると，決断に当たっては責任をもたなければならないとした。また，日本国憲法では「公共の福祉」に反しない限りという制約の下で，「自由」が保障されている。したがって，自分の人権のみ主張し，相手の人権を無視することは許されていない。 こうしたことを踏まえて，私たちは自分だけでなく，社会の中でどう生きるかを考えて，責任をもって「自由」を行使しなければならないと思う。
A	（判断基準Bに加えて） 「自由」に関するこれまでの経験，身近な事柄を踏まえて，「自由」についての自分なりの考え，人間としての在り方・生き方について考察し論述している。

(エ) 本時の実際（一部掲載）

過程	学習活動	教師の働き掛け	「思考・判断・表現」の評価
導入	1 学習課題の設定 『自由』とはどのようなものか。	生徒のもつ見方や考え方で解釈が困難な，身近で具体的な事柄を提示する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> カントの考えた「自由」について資料から読み取っている。 サルトルの考えた「自由」について資料から読み取っている。 日本国憲法にある「自由権」と「公共の福祉」の関係について意見交換している。 『火垂るの墓』の主人公の行為について，カントの思想，サルトルの思想，日本国憲法の理念を踏まえて論述している。 </div>
展開	2 カントの考えた「自由」について理解する。 3 日本国憲法に記されている「自由」について資料から読み取る。 4 『火垂るの墓』の主人公の行為について以下の点から話し合う。 カントやサルトルなら「自由」な行為と捉えるか。 日本国憲法の内容から「自由」な行為と捉えるか。 5 本時の学習内容を踏まえて「自由」について自分なりに考えたことを論述する。	考える視点を与え，論理的な表現で適切に論述できるように指導する。 ・「自由」についての考え方は変わったか，変わったとすればどのように変わったかを論じる。 ・「AはBである。BはCである。CはDである」というように文章の前後のつながりを意識して表現する。	
終末	6 論述した内容を交流する。 7 本時のまとめを行う。	机間指導の結果から，数名の生徒に発表させる。 「判断基準」を活用し，生徒の論述を適切に評価することで学習意欲を高める。	

判断基準Bを基にした評価

補充指導

深化指導

(オ) 考察

「判断基準」による指導

本時における言語活動は、習得した カントとサルトルの「自由」の思想、日本国憲法における「公共の福祉」などを関連付けて考察し、自由の概念を論述させたものである。・の「判断基準」を設定したことで、具体的な視点をもって授業が適切に計画された。また、授業中の資料の読み取り、解釈などの指導や授業後の補充・深化指導にも生かすことができた。

「判断基準」による見取りと補充・深化指導

本時の学習の評価は、「自由とは何か」ということについて生徒にワークシートに論述させ、事前に設定した「判断基準」に照らして行う。

生徒の論述の例	論述の見取りと評価に基づく指導
<p>「おおむね満足できる」状況</p> <p>カントが「理性の出す命令に従うこと」、サルトルが「積極的な社会参加のための決断」と言ったように、自由とは決断であり責任が伴う。すなわち、自由を行使するためには、日頃の自分の発言や行動に責任をもってきちんとしなければならないのである。</p> <p>また、日本国憲法にある「公共の福祉に反しない限り」という条件をクリアできて、初めて自由が保障されるのだと思う。</p>	<p>〔評価〕 判断基準BのAの・について述べられており、これらを関連付けて論述しているので、B状況と判断した。</p> <p>〔深化指導〕 考えるポイントを示し、文章の前後のつながりを意識して論理的に表現するなどの深化指導を行うことで、A状況となると考える。</p>
<p>「努力を要する」状況</p> <p>自由とは、好きなことをして、自分の生きたいように生きることではなく、他の人のことも考えながら行動することである。</p> <p>日本国憲法にも「公共の福祉に反しない限り」認められているものである。</p>	<p>〔評価〕 判断基準BのAの・について述べられていないため、C状況と評価した。</p> <p>〔補充指導〕 基礎的・基本的知識を定着させ、考えるポイントを与えたとともに論理的に表現させる補充指導を行うことでB状況となると考える。</p>
<p>「十分満足できる」状況</p> <p>自分の思ったことを発言したり行動したりするためには、周りから自分の存在が受け入れられていることが前提になる。例えば、いつもはクラスの中で好き勝手に振る舞いをしているのに、何かあったときだけクラスメートに協力をお願いしても受け入れてもらえない。</p> <p>カントの言う「理性の出す命令に従うこと」、サルトルの言う「積極的な社会参加のための決断」から考えると、自由とは理性ある決断であり責任が伴う。すなわち、自由を行使するためには、日頃の自分の発言や行動に責任をもってきちんとしなければならないのである。</p> <p>また、日本国憲法の自由権の条文で、「公共の福祉に反しない限り」と規定しているように、自分のことだけでなく他人のことも尊重することも忘れてはいけな。それらのことができて初めて、自由が保障されるのだと思う。</p>	<p>〔評価〕 判断基準BのAの・について述べられているとともに、「自由」に関する身近な事柄を踏まえ、自分なりの考えや人間としての在り方・生き方について考察し論述しているため、A状況と判断した。</p> <p>さらに、将来のことや社会全体のことについても、具体的に考えてみるように指導を行うことが考えられる。</p>

(カ) 成果と課題

「判断基準」を設定する過程において授業の視点が明確になり、生徒に主体的に学習に取り組ませる授業を行うことができた。

「どういう表現が加われば、更により論述になりますか。」という質問をする生徒も現れるなど、生徒の学習意欲の向上にもつながった。

B状況の生徒が判断基準Aを満たす論述ができるようにするための、具体的な指導の視点を明らかにしておく必要がある。